

令和5年度第2回輪之内町総合教育会議

日時：令和6年2月29日

16時30分～

場所：輪之内町役場公室

1. 町長挨拶
2. 教育長挨拶
3. 議事録署名者の選出
4. 協議事項等
 - (1) 部活動の地域移行について（経過報告）
 - (2) 令和6年度当初予算について
 - (3) その他

輪之内町総合教育会議委員

町長	朝倉 和 仁	教育長	長屋 英 人
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	田 中 俊 弘	教育委員会委員	市 橋 修
教育委員会委員	市 橋 肇	教育委員会委員	金 森 京 子

輪之内町総合教育会議事務局

教育委員会 教育課長	野 村 みどり	教育委員会 教育課主幹	浜 田 一 郎
教育委員会 主任指導主事	近 藤 法 和	参事兼総務課長	荒 川 浩
総務課長補佐	馬 場 優 子	教育委員会 社会教育専門官	増 田 浩 志

(午後4時30分 開会)

○荒川参事兼総務課長 ただいまから令和5年度第2回輪之内町総合教育会議を始めさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして、町長から御挨拶を申し上げます。

1. 町長挨拶

○朝倉委員 改めまして、こんにちは。

今日、本年度第2回目の総合教育会議ということで、この前の会議に引き続いて本当にお疲れさまでございます。よろしくお願いします。

私、今回初めて予算をやらせていただいて、お金はやっぱりどこまで行っても厳しいなというのは正直なところですが、けれども、いろんなところでお話しさせてもらっているんですけど、お金は借金してでもできると。お金よりも難しいのは、やっぱり人がいないということを改めて実感しております。教育に限らずほかの分野でもいろいろ事業をやっているわけですがけれども、これは誰がやるの、やる人いるのという話が必ず出てくるわけで、十分みえます、十分やってもらえますという話になかなかならないというのが正直なところで、人の手当てが難しいなというのが1つ。

それから、この半年で改めて人口の減少を本当に実感します。コロナの2年でもってある程度、それで3年、明けて、去年あたり出生数が増えるかなと思ったんですけど、やっぱり増えないと、子供さんが50人まで届かないというようなことで、なかなか厳しいなというのが正直なところですが。

個人個人の思いがありますので、産んでもらって増やすというのは難しいかなと思いますけれども、それならそれで今いる子供たちのために、学校、家庭に任せるのではなく、みんなで子供の成長をサポートしていかないと、これはやっぱり町がもたないなというのは本当に実感として感じるところでございます。

今回、予算の中で、また後ほど話が出るかもしれませんが、名誉町民の加納良造さんからいただいた基金、平成7年にいただいておりますけれども、これは1億円積んであって、毎年利子をちょこっとずつ上乗せして、増えていきます。これまでなかなか手がつけづらかったということなんですけれども、予算的にも厳しい状況で、なおかつやっぱり1億のお金、多分寝かせておってくれという加納さんの思いはなかったと思いますので、じゃあ、これはまた委員の皆さん方で決めていただく話ですけど、基本私の思いとしては、1億を5年で2,000万ずつぐらい使って、その代わり特色ある、本当に子供たちになかなか予算のない中でできないことを何か考えてやっていきたいなということを、これがどういう形なのか分かりませんけ

ど、とにかく未来に向けて輪之内の子供が元気に育っていくという、そういうようなきっかけづくりになるようなことをこの基金を原資にしてやっていきたいなというふうに考えております。またいろいろと委員の皆さん方のお知恵なんかもお借りしながら、実際に執行に向けてやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

2. 教育長挨拶

○荒川参事兼総務課長 続いて、教育長挨拶ということで、長屋教育長から御挨拶申し上げます。

○長屋委員 改めまして、こんにちは。

第2回の総合教育会議ということでお集まりいただきましてありがとうございます。教育委員の皆さんには引き続きということでお世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

今年度も残すところあと1か月ということなのですが、中学校では3月5日に公立高校の入試、それから3月7日には卒業式ということで行事が控えているんですけども、現在町内ではコロナウイルス、それからインフルエンザによる学級閉鎖は行われておりませんので、何とかこのまま乗り切ってほしいなというふうに思っているところです。

今年度は、2学期制への移行とか、後ほど話題になる中学校部活動、運動系のほうですけれども、こちらの地域移行というような大きな制度変更がありましたけれども、教育委員会のほうには課題というか、そういうものは届いていません。

それから、中学校のほうがジェンダーレス制服ということで、現在いろいろ取り組んでいるところで、令和7年度の導入に向けて今のところ順調に進んでいるという状況だそうです。

国の第4期の教育振興基本計画、これが令和5年度から令和9年度までの5年間の計画なんですけれども、ここに示されている2つの大きな柱の1つ目が「持続可能な社会の創り手の育成」、これが1つ目です。2つ目が「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」ということで、ウェルビーイングの向上は、今までは自分の幸福を追求すればよかったんですけど、これからは自分と、それから社会の幸福を追求していくという、そういう考え方になっています。

これを踏まえたということで、先日の町の校長会では、来年度に向けて、総合的な学習の時間を、最終的な出口を保護者に授業参観で発表して終わりではなく、町への提案というような形の提案型のプロジェクト学習ができるといいなというふうなこととか、あと今年もお願いしましたけれども地域行事への子供たちの積極的な参画、こちらのほうをぜひ計画に入れてほしいということをお願いをしたところです。

教育振興基本計画につきましては、国のほうは今年から始まっていて、県のほうが今案という形で出されていて、今度の3月の議会ですね、そこで正式決定されて、令和6年度から

始まるというふうになります。町のほうは、それを受けまして、6年度中にまた計画を立てて、7年度からの5年計画というものをまた策定していくということになると思います。また御意見等はいろいろお聞かせいただくことになると思いますが、よろしく願いいたします。

本日、第2回ということで、先ほどもちょっと話題になりましたが、中学校部活動の地域移行についてということと、それから令和6年度の新規事業についてということが主な議題となっております。積極的に御協議いただくとありがたいなというふうに思います。

それでは、どうぞよろしく願いいたします。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

3. 議事録署名者の選出

○荒川参事兼総務課長 それでは3番目、議事録署名者の選出ということで、私のほうから指名させていただいてよろしゅうございますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○荒川参事兼総務課長 それでは、教育委員会委員の市橋修様、そして金森京子様に議事録署名者のお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

4. 協議事項等

○荒川参事兼総務課長 それでは4番目、協議事項等に入ります。

まず1番、部活動の地域移行について(経過報告)ということで、よろしく願いいたします。

○増田教育委員会社会教育専門官 それでは、部活動の地域移行の現状の報告をさせていただきます。

お手元に資料を準備させていただきましたが、前回、本当なら1月に行われる予定でしたが、雪のため延期になりましたので、そのときの日付のままになっておりまして大変申し訳ございません。

1回目に8月28日にこの総合教育会議を行った後のことについてお話をさせていただきます。

8月29日、総合教育会議の翌日に、中学校の現在の部活動の種目ごとの保護者会の代表の方にお集まりいただいて、今後こういうふうにしていくよということの説明と、地域の指導者の方にはこんなことをお願いしていきますので保護者の方も知っておいてくださいという説明をさせていただきました。

9月に入りましてすぐに、中学校の地域学校協働本部、森区長会長さんが会長ですけれども、森会長から委嘱状を地域指導者の方に渡していただいて、私のほうからは国や県が示している

ガイドラインとか中学校の指導方針等を守っていただいで活動を進めてくださいというお願いをしました。

地域移行するに当たって事務手続がいろいろございましたので、そういったものについても説明をさせていただき、その後、議会の文教厚生委員会で議員さんから幾つか質問が出ましたので、それに答えさせていただきました。特に、議員さんからは、日本中でいろんな部活をめぐるトラブルというのは起きるわけで、そういったような指導者と生徒の間でトラブルが起きた場合はどこが窓口になって対応するんやというような御質問もありましたので、中学校と教育委員会とが窓口になって対応させていただくというような回答もさせていただきました。

結果、星印に示してありますように、合計24人の方が指導者登録をしてくださいました。種目等の内訳については、そこに上げたような人数です。

この24人のうち、教職員が4人おりまして、2人は輪之内中学校の職員、残りの2人は現在別の学校に勤務されている方で、この方々はそれぞれの学校の校長先生に兼職兼業届を出していただいで、平日の夜間とか休日にそっちで活動して報償をもらっていいよということを確認していただいた上で参加していただいでおります。

諸手続が大体9月26日に完了しまして、地域移行が始まりました。

2枚目にありますのは、西濃地区各市町の進捗状況です。

12月の頭に県のほうでクラブ活動推進会議というのがありまして、それぞれの市町の地域移行を担当している職員が集まりまして、県内の状況の交流をしたり、日本全国の先進事例等を学ぶ会議だったんですけれども、そこで西濃のそれぞれの担当から、こんな感じで現在進んでいるよというような状況報告をまとめたものです。

ただ、これも昨年のお話ですので、もう3か月近くたとうとしていますので、そこからやっぱり状況は少しずつ進捗してござりまして、例えば同じ安八郡内の神戸町でいきますと、来年度です、6年度の新チームから地域移行の予定で、ごうどスポーツクラブが受皿となって現在調整中ですよという話だったんですが、先日新聞報道にもありましたように、神戸町と、それからごうどスポーツクラブと神戸中学校の間で覚書が締結されまして、すぐに4月からごうどスポーツクラブが受皿となって進んでいくというふうになりました。

担当者に最近話を聞きましたら、一応国からの委託は教育委員会が受けて、それをごうどスポーツクラブに一定額流していくんですが、補助金にするのがいいのか委託金にするのがいいのかというのを現在調整中だと、予算的な面で、そういうところが問題になっているという話をしてござりました。

安八町でいきますと、現在、そこに書いてあるようにサッカーと野球が先行実施ということで、4月からはほかの部活もクラブ化されていくというふうになっています。受皿のほうは、

安八町も総合体育館のほうにあるスポーツクラブになるというふうに聞いております。

実際に地域移行が始まりまして、事務手続上でなかなか難しい面もたくさんあるんですけども、現在、国のほうに最終的に届く指導者の方々のいわゆる実績簿とか、それに対して幾らぐらいお支払いをしたかというようなことのまとめを県のほうに送って点検を受けているところですが、私の力不足で、なかなかこれじゃあ読み取れないとか、これで本当にいいのかということを連日御指摘いただいて、修正しながら進めているところです。

資料の4ページ辺りには、12月末までにどの種目にお幾らお支払いしたか、それから最後のページには、名前が消してありますが、個人それぞれ細かい内訳を載せさせていただきました。

一番大事なのは、先ほど教育長も申しましたように、持続可能というところになってくるかなというふうに思います。先行的に始めたんですけども、国の補助があるからとか、県の補助があるから続けられるというのではなかなか苦しい部分がありますので、将来的に国は令和8年度から何とか100%ではないにしても90%以上を地域移行したいと。それは運動系だけじゃなくて文化系も含めてです。そうすると、6年度、7年度の2年間の間に、ある程度輪之内町としてこういうふうにしていくといいんじゃないかというものをつくり上げていかないと、この先なかなか難しくなってくるかなというふうに思っています。

そのためにということで、3ページの中ほどからですが、持続可能な地域移行というふうにしていくために、現在なかなかはっきりしていない美術部と吹奏楽部、文化系のほうですね、これをどういうふうにしていくかということです。

昨日、中学校の本部会議に出席させていただきましたが、現状でいうと、美術部の入部希望者がなかなか増えないだろうと。減っていくということになると、ひょっとしたら4月から入部希望を受けずに、廃部の方向に進んでしまうかもしれないというふうに言ってみえました。

吹奏楽部については、前から言っておりましたように楽器の運搬とか保管場所等を検討していくということなんですけども、試験的に、そこにも書いてありますように、12月にリトルホールを使っていただいて夜間の練習を少しやってもらいました。これはコンクールに音源を提出するというために、そこで音取りをします。リトルホールの隣に和室があるんですけども、そこにちょっと一時的に楽器を保管、大きい楽器ですね、保管をして、それでリトルホールに運び込んで練習をしてもらうというようなこともやってみました。利用者がなければこういうことも可能かなということで、さらにこういう試行を重ねながら道筋をつけたいというふうに思っています。

先ほど申し上げましたように、運動系も文化系も7年度までにめどをつけるために、引き続き来年度も実証事業の参加はしていくわけなんですけれども、それが引き上げられたときに全額町費負担ができるかとか、やっぱり受益者負担で生徒や保護者から会費を徴収して行ってい

く、じゃあ会費を徴収した場合はその管理は誰がどういうふうにしていくのかというようなことははっきりさせていかないと難しいかなと思っています。

もう一つは、生徒数が少なくなっておりますので、特に団体競技ですね、一番人数の多いのというとサッカー、11人いないとチーム構成できません。そういうふうになってくると、輪之内中学校の生徒だけで構成できなくなってきました。実際に現在もバレーボール等で合同でやっているところもあるわけで、それが安八郡内なのか、西濃なのか、県内どこでもオーケーなのかということが、地域移行が進んでいるところもあるし、全くまだ進んでいないところもありますので、そこら辺の兼ね合い、これも県に要望しているんですが、誰がどういうふうに通頭を取って調整をしていくのかということをはっきりさせていかないといけないかなというふうに思っています。

これに伴って、部活動とは直接関係ないんですけども、間接的に関係のある、今、少年団活動というのがあります。輪之内町にもいろんな少年団があって小学生が活動しているんですが、これも参加者がなかなか増えていかない。少年団の場合は、別に輪之内町内の少年団に入らなくてもいいわけで、他市町の、下手すると他県のクラブに入っている子もいます。そういう子もいる中で、輪之内中学校の部活動をどういうふうに存続させていくのか、存続させなくていいのかという議論も含めて、この2年間で山場かなと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

○荒川参事兼総務課長 説明をいただきました。何か御意見、御質問等あれば、どうぞ。

○市橋（肇）委員 いいですか、今ので。

○荒川参事兼総務課長 はい、どうぞ。

○市橋（肇）委員 増田先生、ちょっと聞かせてほしいんですけど、中学生、実際に部活動をする人たちのニーズって何か把握されていますか。本当にこういう地域移行をすることを望んでいるのか、他市町なんかのより高等な技術を持っているチームへ行ってもいいと思っっているのか。

何か私たちが育ってくる環境の中では、知育・徳育・体育というような、基本的にスポーツのほうだったんですけど、スポーツとなじむというのは、どちらかというと、中学校に入って、そこで先生に教えてもらって、そこでなじんで育ってきたようなところがあって、それをすごく憧れも持ってやっていたと思うんです、小学校を卒業して中学校へ来ると。

小学校で今、先ほど言われた少年団というのがあると。少年団活動というのは、ずっと続いておってもいいんだと。中学校で下手に部活動をやるもんだから、そこが空白になって、また大人になって少年団活動を続けるということもあっていいんじゃないかということで、何か大垣市なんかの少年団活動も見ている、何か中途半端になっちゃって、減少傾向にどんどん

なっている。

いろんな形態を生むのはいいんだけど、実際にそこにいる子供さんたちは一体何を望んでいるのかというのがちょっとよく分からない。特に少子化しているだけに、多様化しているということは分かるんですけど、思いが一体どこへ傾斜しようとしているのかをもうちょっと把握できたらいいのかななんて思っているんですけど。

○増田教育委員会社会教育専門官 具体的な数値はなかなかないんですけど、例えば小学生で少年団に所属している子、輪之内町内の少年団に所属している子は、友達に誘われたというものもあるんでしょうけれども、何か体を動かしたいとか、いろんなことを経験したい、体験してみたいという子が多いです。

同じ小学生でも競技力志向の高い子、強くなりたい、うまくなりたいという子は、例えば隣の市のモア何とかクラブとか、こっちの大きい市の何とかクラブ、バスケットとかバドミントン、陸上などは当然そちらに流れていく。

特にバスケットなんかでいうと三重県のチームに所属している子もいまして、やっぱりそういったところで全国大会に出ると、そのレベルをずうっとキープしたいというのがありますので、中学校でもアンケートを取るとうまくなりたいと答えて、輪之内中のバスケットクラブに入るのかどうかは分からないというふうになってきていると思います。

それで、半分ぐらいの子は、できれば休日は避けてほしいという結果も出ています、輪之内中でいうと。だとすると、じゃあ夜だけで成り立っていくなんていうのもなかなか難しいので。

○田中委員 質問の途中で取って悪いけど、どのくらいの数字になるんですか、他県へ行くとか……。

○増田教育委員会社会教育専門官 ほんの僅かです、それは。

○田中委員 あるいはお付き合い程度のかつてのクラブ活動でいいというものも、どのぐらい、半分ぐらい。

○増田教育委員会社会教育専門官 いや、もうちょっと多いです、いわゆる地元に残るといって、中学校に残る子は。

○田中委員 ああ、そうですか。

○増田教育委員会社会教育専門官 はい。でも、種目によってはもうまるきり。例えば野球でいうと、現在、輪之内の野球少年団、3小学校合同で1チーム。

○田中委員 いや、中学校の話。

○増田教育委員会社会教育専門官 それで、その子たちが今度中学校になるんですけど、一人も入りません、野球部には。全部クラブチームに行きます。西濃ボーイズに。

○田中委員 増田先生の範囲は外れるわけね。

○増田教育委員会社会教育専門官 外れるのかどうかもよく分からないんですけど。輪之内中の野球部には入らない。

○田中委員 それで、輪之内中の野球部は安八と一緒にやらんと1チームつukれないとか、そういう状態になるわけですか。

○増田教育委員会社会教育専門官 そういうことです。

○田中委員 大体分かりました。

○市橋（肇）委員 競技によって、それぞれのニーズが違うんだということですよ。

○増田教育委員会社会教育専門官 そうですね。

それで、もう一つは、こんなことを言うては大変失礼なんですけど、せっかく御指導いただいているんですが、指導者の方の競技に対する熱量、生徒ではなくて、競技に対する熱量の違いで、例えば私がこういうふうに指導者の方々に集まっていたら、国や県のガイドラインはこういうふうになっておりまして、大体週10時間ぐらいをめぐり、月に40時間ぐらいに収めていただいているという話を、そやなとって守っていただける方と、いいぞやってもとかというふうで、どんどん追い込んでいくと生徒は離れていきます。最終的に残るのは、本当にやりたい子とか、それでもついていくという子だけになってしまう。

そうすると、さっきもちょっとお話が出ましたが、指導が厳し過ぎるんじゃないとか、やり過ぎじゃないとかとトラブルになってしまうので、現在のところ、そういうところはぎりぎりのところで何とかセーフなんですけど、今後どうなっていくか分からないと。

○田中委員 クラブチームで精鋭になっていく人と、スポーツに親しむことが目的という人が、指導者との温度差があるわけやね。

○増田教育委員会社会教育専門官 でも、本来この地域移行したのは、教員の働き方改革というのはあるんですけど、どういうタイプの子でもと言ったらおかしいですかね、運動が得意な子でも苦手な子でも、いろんなものが選べる受皿があって、そこに行けば楽しめるということが本来の趣旨だと思うんですけども……。

○田中委員 どんどん外れていく気がするね。

○増田教育委員会社会教育専門官 僕は言っていないですよ。そういうクラブチームもあるので、選択肢としてそういうクラブがいいという子もいるし、いや、そういうクラブでは駄目だから入らないという子も出てくると思います。

それで、先ほど申し上げたように広域化して選択肢を増やしたほうがいいかなと思うんですが、その場合はもう完全に自己負担が増えていく、保護者の送迎や何かの負担も増えていく。

○田中委員 そうやわな、自転車でするわけにいかんでな、安八まで。

○市橋（肇）委員 会費も高いんですよ。

○田中委員 でも、そうになっていくみたいやね。

○市橋（肇）委員 だから、何かよく分からなくて、先ほど増田先生のこの各市町の進捗状況をやってもらって、輪之内は地域学校協働本部が主になってやっているけれども……。

○増田教育委員会社会教育専門官 うちだけです。

○市橋（肇）委員 あとはもうほとんどスポーツクラブという名前になっているんですけど、このスポーツクラブという名前もくせ者で、先ほどの少年団活動があったり、スポーツクラブそのものがどのくらい偏った競技しか持っていないとか、いろいろな指導者のリッチな競技には、神戸なら神戸のほうがいいよと、こっちは安八なら安八のほうがいいよ、指導者によって選ぶ可能性がちょっとあるんじゃないかというのをちょっと思ったりもするんですよ。

だから、輪之内の独自で取り組んでいくことがいいのか、もうちょっと広い目で見て、西濃地区で見たほうがいいのかとか、何かそういうことをいつかは見直さなきゃいけないんじゃないかなと、子供のニーズがばらばらなんだろうというふうになんか思っているんですけど、いかがですかね。

○増田教育委員会社会教育専門官 肇委員のおっしゃるとおりで、取りあえずという言い方は今生きている中学生に大変失礼なんですけど、一通り西濃の全市町が地域移行を始めましたの段階にならないと、その選択をどういうふうにしていくかというようなことは、準備を進めていくんですけれども、なかなか話は進んでいかないかなと思います。

例えば神戸でいいますと、中学校の隣に総合体育館があるんですけど、その1階の事務室にごうどスポーツクラブの事務局があって、専任でちゃんと係がいてというような。輪之内の規模だとなかなかそれは難しくてということが実情ですので、そこら辺を本当にどうしていくといいのかなと思って。

○市橋（肇）委員 私たち、安八郡の教育振興会というのがありますよね。そこで年間の表彰を受けるときに、中学校の部活動を由来に表彰を受けているんじゃなくて、それぞれ空手をやっていて全国大会へ行ったとか、いろんな違う競技で一応目立って表彰したりなんかしているんですよ。

あの実態を見ると、基本的にはもう部活動じゃない。それぞれの競技、それぞれの指導者のところで、それなりの能力を発揮した人が表彰なんかを受けているというので、何か一貫性がないというか、何か競技のほうにどんどん傾斜しちゃっていると。

例えば輪之内だとフェンシングなんていうのは結構母集団として結構力を持っているんだけど、あれなんかはやっぱり違うところでやってもらって、大垣南高校の出身の先生の母集団で面倒を見て行って全国大会へ行っている。下手するとオリンピック選手が出てくるかもしれな

いというような勢いも持ってきているんですけど。

そういう形になっていっているから、部活動をせずにそっちへ行っている子供たちが結構いるんじゃないかなと思って、ちょっとさっきから言っているんですけど。この部活動という言葉がもうなくなっていくんじゃないかなというふうにちょっと……。

○長屋委員 その辺は、学習指導要領にも中学校のところに部活動という言葉があるので、今は地域移行してもやっぱり部活動だから、中学校の教育活動の一環というような形でね、土・日は地域の方に任せるといような形になってきていて、先ほどのフェンシングとか、空手とか、何かそういう特異なやつは例えば先ほどから出ているリトルリーグに行くようなもので、そういうエキスパートを目指す子はそういうところへ行けばいいし、中学校の部活動はあくまで教育活動の一環として部活動のガイドラインにのっとってやるという、そういう子供たちが集まるところで、選択肢の一つになるんじゃないんですか、それぞれの。

○田中委員 何か今話を聞いていると、精鋭化してプロを目指す、これはええわね、やってもらって。

だけど、余暇活動の延長で、僕クラスの人がちょっと野球というのをやってみたいなとかいうのを大事にしてあげたいんだけど、これってだんだん縮小して何か吸収されていってしまうような気がするね。ちょっと寂しい感じがする。昔やったら、部活動を学校の先生がやっておるので、こうやって選ぶことができたけど、僕らみたいなプロを目指さない人ができたけど、だんだんできなくなっていくな。これが精鋭化していくような気がして、ちょっと寂しい。ちょっとこうやって様子を見たらなあかんかもしれんけどな、増田先生としては大変やけど。

○増田教育委員会社会教育専門官 いえいえ。

○市橋（肇）委員 それでも先ほど言われた教職員の方の過重労働を減らすという目的は達成されていくということではいいけど。

○田中委員 過重労働を減らすのは、教育長の立場やけど、やっぱりそれなりに生徒に対して最大のいい選択肢でないといかんわね。何か寂しいね。ちょっとそれでも様子を見ないと、本当にこうなっていくのか、皆さん多様なニーズを持っておられるし、教育の今の状況としては多様化、なるべく多様化したほうがいいので、様子を見ないとしようがないね。

○増田教育委員会社会教育専門官 4月になって新1年が入って、彼らがどういう選択をするのか、それによって募集をもうかけられんなというところが出てくるかもしれないです。

○長屋委員 生徒の数がどんどん減っていっているんで、成り立たない部活も当然出てくるだろうし。

○田中委員 団体競技やとそうやね。

○市橋（肇）委員 もしくは、先ほどあった教職員の方が相変わらず指導していただいていると

ころは、中学校の先生が担当してくださっている競技については、中学校の部活動として残るかもしれないですね。

○長屋委員 平日はやっていますのでね、学校の先生が。

○増田教育委員会社会教育専門官 この3月からまた再開で。

○長屋委員 実は学校の先生が、一応中学校の教育課程にあるので、教育課程というか学習指導要領に載っているもので、その限りはやっぱり学校で先生が指導しますね。

ただ、例えばスポーツならスポーツで、そのスポーツを専門にやっていたかどうかというのは、顧問が……。

○市橋（肇）委員 どうかというのは、また別。

○長屋委員 半分ぐらいしかいないとかいう話でしたね。

○田中委員 僕の認識が甘かったね。

○市橋（肇）委員 だから、先ほどの例えば平日でも、例えば野球部なんていうのは、中学校の先生が平日野球部を指導していて、休みだけは違うクラブへ行っているとか、そういう形になっているんですか。中学校の平日の部活動でも、野球部というのはもうほとんど部活動をされていない。

○長屋委員 メンバーいないもんね。

○増田教育委員会社会教育専門官 現在は、もう3年生が1人卒業なので、1人しかなくて。

○田中委員 野球部1人。

○増田教育委員会社会教育専門官 輪之内中。

○浜田教育委員会教育課主幹 キャッチボールができないです。三角ベースやなくて、キャッチボールができない。

○田中委員 そうか。壁でやるよりしようがない。

○浜田教育委員会教育課主幹 その子は、登龍には行かないので、平日だけやりたいという子なので。

○市橋（肇）委員 ちょっと私ごとですけど、自分の孫が少年団野球をやってきていて、それで中学校に上がるので、中学校の部活動に行くのか、ボーイズに行くのか、見学に行ったりして、孫はボーイズに行きたいと。平日からそんな中学校の野球部はやらない。もともと違うのは、ボーイズだったら硬式なんですよね。中学校は軟式なんですよ。だから、もうそこで全然違ってくるんです、競技の形態がね。そんなようなことを言っているもんですから。

あと、西濃地区でも大垣市の状況なんかを見ていて、野球大会なんかは、昔は例えば大垣東中学校で1チーム、南中学校で1チームなんてやっていたんですけど、今は例えば興文と南中で1つのチームができるかできないかとか。

○田中委員 大垣でもそんなもん。

○市橋（肇）委員 だから、大垣の大会なんかも、昔はもっと日数がかかって大会をやっていたのが、簡単に済んじゃうんですよ、試合数が少ないから。

○田中委員 なるほど。

○市橋（肇）委員 もうそのくらいの状況で、中学校の野球部というのはそんな感じになっていて、逆にボーイズとかそういうほうへみんな流れちゃっているんですよ。

それで、そっちのほうが会費なんかも多くて、お母さん方も送り迎えとか何とか負担も大きいんですけど、どういうわけかそっちへ行っちゃうんですけど、子供がやりたいというから。

○浜田教育委員会教育課主幹 すみません。私の子供も今少年団でやっていますが、やっぱり働き方改革で部活が行われないう、週2回まで、3回とか、それで土・日はどちらか1日の1日3時間までと言われてしまうと、やっぱり練習ができない。そうすると、やっぱり友達同士でどうすると話し合っ、やっぱり行っても試合もできないような人数だったら、やっぱりボーイズへ行こうというふうになってしまうのはしょうがないかなという。ただ、どこかでやっていけばいいかなとは思いますが。

やっぱり中学校で僕教頭としていたんですけど、一番寂しいのは辞めますという、自由なので。ほかで頑張ることあると聞くんですけど、やっぱり指導者との馬が合わないことで辞めていく子も何人もいた。やっぱり先ほど言われた指導者の熱量。ただ一生懸命やることに嫌だとかじゃなくて、指導法とか、こういうのとか。

○田中委員 そういう話か。

○浜田教育委員会教育課主幹 そういうのもやっぱりあるんです。

○田中委員 あるわな、人間がやる以上。

○浜田教育委員会教育課主幹 はい。

○市橋（肇）委員 なかなか難しいです。

○浜田教育委員会教育課主幹 だから、純粹に子供たちがスポーツをやってくれるといいんですけど。

○市橋（肇）委員 せっかく動き始めたことなので、どういうふうになっていくか、そこで取捨選択されて、残るものは残っていくんじゃないかというふうには思いますけど。

○荒川参事兼総務課長 じゃあ、今日は経過報告ということで今までのあれですが、今後については、いろいろと難しい課題がありますけれども、今の計画のとおりいくしかないということですね。

じゃあ、1番はよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○荒川参事兼総務課長 じゃあ次、2番、令和6年度当初予算についてということで、お願いいたします。

○増田教育委員会社会教育専門官 すみません、退席します。

○野村教育委員会教育課長 はい、すみませんでした。ありがとうございました。

(「ありがとうございました」と呼ぶ者あり)

○野村教育委員会教育課長 では、すみません、お願いします。

令和6年度の教育課所管分新規・主要事業(案)について説明いたします。

教育課当初予算は6億5,458万7,000円を計上いたしております。事業内容につきましては、ほぼ決定事項となっておりますので、御報告させていただきます。

新規・主要事業として23項目を上げさせていただきました。特徴のあるもののみ簡単に説明いたします。番号に沿って説明いたしますので、番号の区分を御覧ください。

2. 地域学校協働活動推進事業は、学校と地域が目的を共有、連携・協力しながら、地域全体で子供たちの成長を支えながら地域での活動を推進していきます。

3. 夏休み寺子屋教室開催事業は、夏休みに自習室を開室し、自発的な学習意欲を促進することを目的とします。令和5年度は、新たな試みとして夏休みに各小学校区ごとに10日間ほど実施しました。福束校区は12名、二木校区11名、大藪校区19名、輪之内中学校25名の参加がございました。

6. 情報教育推進事業は、ICT支援員の配置を生かし、ICTの活用指導や授業の改善、児童・生徒の情報活用能力の育成に向けて支援体制を充実させていきます。

7. 同じく情報教育推進事業中、学習者用デジタル教科書導入事業です。令和6年度は、英語と数学の一部において国庫補助が確定しております。不足している科目を補い、予算の範囲内で、小・中学校全学年、もう一教科のデジタル教科書を導入する積算となっております。

9. 学力向上検定料補助事業です。英語検定において、小・中学生の受験料を全額補助し、検定試験に対する意欲を高め、英語の基礎学力、コミュニケーション能力の向上を図ります。令和4年度から漢検・数検の受験料の補助を開始しました。英検と同様に、検定受験料を年1回全額補助するものでございます。

10. 英語教育支援員配置事業です。町内各こども園、各小学校に英語指導助手を派遣することで、園児・児童が一貫した英語教育を受け、国際感覚を身につけることができました。また、このほかに各小学校に2名ずつ英語支援員を配置しております。令和6年度も同様に配置し、英語教育に力を入れていきます。中学校においては、JETプログラム授業におけるALT1名を派遣いたしております。

11. イングリッシュデイ開催事業は、新規の事業でございます。中学校2年生を対象に、英

語によるコミュニケーション体験を通して、相手に自分の思いを伝える、相手の思いを受け止めるなどの対話力の向上を図ります。加納良造学術文化振興基金を活用いたします。

12. 日本語ひろば開室事業です。日常生活に必要な日本語、日本における生活マナー及びルール習得を目的として、近隣市町、町内在住の外国人を対象に日本語指導を行います。

次ページを御覧ください。

16. 図書館空調取替事業です。輪之内町図書館は、平成5年5月の開館以来30年が経過しました。既設の空調が老朽化し、交換部品がなく修繕が難しいため、更新を行うものでございます。

次ページをお願いします。

28. 防災士養成事業では、防災士養成講座を中学校2年生を対象に行っています。計上する経費としては、テキスト代、講座の開催委託料、受験料、登録料でございます。

30. 高等学校就学準備等支援金支給事業は、令和5年度から始まり、今年度から始まりました。高校進学や就職等の準備費用に対する経済的負担を軽減するため、中学校3年生の保護者に対し、対象生徒1人当たり3万円の助成をいたします。

31. 選奨生奨学金貸与事業です。優秀な生徒であって経済的理由により就学が困難な者に対し、奨学金の貸与を行います。令和5年度の貸与者は、継続で大学生が1名でございます。また、令和4年度から、輪之内町高校生等修学給付金支給要綱に基づき、対象高校生1人当たり5万円の助成をいたしております。令和5年度は10名の高校生へ助成をいたしました。

33. 「清流の国ぎふ」文化祭2024事業です。岐阜県で文化祭の開催を通じ、地域のつながり、絆を強化し、地域の活性化を図ります。輪之内町では、1日目に「人形劇ア・ラ・カルト2024」、2日目に全国武将隊フェスティバル「丸毛出陣！2024」を開催する予定となっております。

34. わのうち未来塾事業では、輪之内の子供たちが、仲間と触れ合ったり、町内外の自然や歴史を知ったりするなどの豊かな体験を通して、将来、思いやりがあり、やる気、生きがいを持った大人になってもらうことを期待して行う生涯学習講座でございます。対象は小学校4年生から6年生で、募集人員は30名、令和5年度の実績は34名でございました。

また、加納良造学術文化振興基金を活用し、中学生を対象に、夢や希望を持ってひたむきに生きる人の活躍に学ぶことを通して、生徒一人一人がよりよく生きることへの憧れを持つことができるようにするとともに、輪之内町の将来を担う地域社会人となることへの意欲を高めることを期待して行う生涯学習講座を企画していきます。

次ページをお願いします。

36. 生涯学習振興事業修繕工事です。歴史民俗資料館の再活用、活性化を図り、地域文化・

歴史の継承、観光事業との連携を目的とします。加納良造学術文化振興基金を活用し、歴史民俗資料館の改修を行う予定でございます。

38. 地域スポーツ文化活動推進事業です。先ほど増田先生から説明がございましたが、中学校の休日等の部活動について、令和5年度から地域への移行が段階的に始まり、輪之内町では地域学校協働活動中学校本部を主体に推進しています。休日・夜間等におけるスポーツ活動や文化活動に、中学生が継続的に親しむ機会を確保していきます。

41、42、学校給食事業です。学校給食総務管理事業では、学校給食施設の管理業務等経費を、給食供給事業では、調理業務委託、賄い材料費等を計上いたしております。センター方式による学校給食の安定供給と地産地消の推進に努め、安心・安全な完全給食を提供いたします。

以上が新規・主要事業でございます。よろしくお願いたします。

○荒川参事兼総務課長 それでは、ただいま教育課所管分の予算の説明がありました。付け加えさせていただきますと、来週4日から議会が始まります。この予算を当初予算として上程させていただいて、3月15日が最終日でございますので、議決をいただければ、この計画に沿って令和6年度進めていくということになっております。

それでは、何か御意見等あれば、どうぞ。

はい、どうぞ。

○市橋（肇）委員 学術文化の振興というか、加納良造様の振興基金をいただいている、その使い方ということで、ちょっと私なりの意見を。

よく学術文化というすごい範疇でいくと、分かりにくくて非常に難しいと思っているんですけど、私、別のところで、商工会のほうで、手弁当で、2010年から輪之内町の観光委員会というのをやってきたんです。それで、観光マップをつくるということから始めまして、それをやろうとすると、結局輪之内の文化遺産とかそういったものを探索する、それをマップにすることから始めてやってきて、途中では文化庁の資金をいただいたりなんかして、いろんな講演会とかそういうものも開かせていただいて、今日まで活動してきたんですけれども、この前ちょっとお話を聞きましたら……。その中で、町のほうからは毎年百数十万円軍資金をいただきまして、運営してきたりなんかさせていただきました。それは本当に十三、四年ずうっと支援していただいたので、お礼を申し上げておきたいんですが。

そのやっていったときに、基本的にやり始めたときに輪之内町には観光事業がない。それから、そういった文化学術といったものをきちっと系統立ってやっているだろうか。片一方で、輪之内町としては、町史をつくるために、それなりの歴史、それなりの経過はきちっと整理されているやに聞くんですけども。

先ほど歴史民俗資料館なるものをきちっとこれから整理しましょうと、これはいいことだと

思うんですけれども、結局、いろいろなものをつくられているんですが、残っておったりなんかするんですけど、系統立っていないので、あくまで点でしかない。その点もあまり深掘りされていない。それを線にしたり、面にしたりという、それを活用して、これからの人に役立てていくと。

加納さんは、結局、文化学術をこれからある程度保存していただくじゃなくて、今からの人たちに活用して、温故知新というんですかね、そういう方向に持っていきたいために基金として御寄附いただいたんじゃないかというふうに勝手に想像するならば、私、ちょっと今、輪之内で学術文化なるものをどうこれから取り組んで、後世の人もしくは今の人に伝えていくかということをもうちょっと真剣にやらないと、点は点のままいってしまう。

だから、学術文化について何かプロジェクトみたいなものをつくっていただいて、深掘りする「深耕」と、それから振るい起こす「振興」とか、そういった学術文化を背景にどうこれから持っていくか。それで、行く行くは何に役立てようとしているのかという話に持って行っていただけたらいいかなと。

1つ、ここでも予算にされている丸毛さんの3年ごととか何とかでサミットを行ったり、いろいろしているんですけど、あれも私たちがやっていたときには点でしかなくて、福東城があったというような話で、何にもほとんど、福満さんに何かそれなりの版木があるよというだけの話で、あと何にもないという感じがあって、歴史を語る上で非常に厄介、それからほかからの人に紹介するのに非常に厄介というようなどころがありまして、こういう現状を踏まえた上でどう持っていったらいいかということ、先ほども言ったプロジェクトみたいなのを起こしてもらって、それから方向性を出して取り組むようにしてはどうかというふうなことをちょっと御提案申し上げたいなど。

私たち手弁当でやってきて、観光事業なるものをもうちょっと振興していきたいなど、振興は振るい起こす方向ですね、商工会ですからそれなりの利潤を追求したりなんかすることのほうへ持っていきかけたんですけど、志半ばで。

今回、予算ももう断ち切れるということを産業課からも伺っておりまして、もうほとんどその予算はビッグにある……。

○朝倉委員 ホットステーションですね。

○市橋（肇）委員 ホットステーションの人件費に充てておったんですよ。そんなような現状もありますので。

私は、前の会長さんがずうっとやってこられたんですけど、年齢のために退任されて、その後、閉じるための役割を担った会長でしかないんですけど、それはそれでいいと思うんですけど、逆に今まで手がけようとしての反省から、それを踏まえて発展させていくにはどうしたら

いいかと。できれば、その丸毛サミットもいいし、継続して、何か点だったことを線にしたり面にしたりして取り組むような方向へ持っていく何か真剣な討論をしていただけたらなと。

○朝倉委員 本当に市橋委員おっしゃるとおりでして、ちょっと少し話させていただくと、まずこの1億円を使いたいというのは、最初はお金がないと。お金がどこかにないかなと見ておって、ここに1億円あるやないかというのが正直なところです。

かといって、やっぱり加納さんの思いがあって、例えば文化ホールを直すのに1億使ってしまったのは、これはもったいない話ですので、先ほど少し申しましたけど、やっぱりこのお金を使ってしかできないことをやろうかと。

先ほども言いました、大体目安として2,000万ずつ5年ぐらいでというのは、それはまさに計画的にやっぱり。これは全く勝手な私の思いですけれども、1億のうちの5,000万ぐらいは、半分は学校教育とか現場に使いたいと。残りの半分は文化学術、そういったものに使いたいなど。

そういうことで、歴史民俗資料館については、今ちょっと遊んでいますので、やっぱりせっかく図書館に来てもらって、あそこはもう正直、奥にも全然入れないような状況ですので、まず教育長に話をし、まずじゃああそこをきれいにしましょうと使わせてもらったんですけども、残りの9,000万については、やはり5年間で何をやっていくかというようなところは、本当に計画をつくって、プロジェクトチームというのは今初めて伺いましたけれど、やっぱり計画的にこういうふうで5年間やっていきますというふうにやらないと、それは加納さんに申し訳ないなというようなことで考えています。

せっかくですので、観光について、私も県内ほとんどの地域を見てきまして、やっぱり輪之内にとって観光というのはなかなか難しいなど。例えば、この間ある国会議員の方とお話しして、うちはすみません、何もありませんけどとお話ししたところ、あるじゃないと、今、水屋なんかは物すごいよ、あれは観光資源になるよと言われたんですけども、観光資源として、あれで人が呼べるかとなると、ちょっと違うなど。

ただ、水屋というものが今私らでも忘れかけているくらい、今の若い子らはもう全然分かりませんので、やっぱりそれはそれで地域の資源といいますかね、それを例えばアーカイブで残してどこかに上げるとかですね、今の洗堰なんかもそうですし、神社なんかもそうですけれども、そういうのを計画的にきちっと文化芸術の資源として残していくと。それは、あえて外から呼ぶためにじゃなしに、後々の子供や孫らに残していく必要があるのかなというようなことは考えています。

○田中委員 教育に使っていかうというわけね。

○朝倉委員 そういう思いもありまして、やっぱり観光というよりは地域資源を磨いて後世に残

していくと。

ある首長さんとお話しして、うちは観光なんかあらへんし、その方が言われるのにね、ホームページも、町のホームページがありますよね、町のホームページも何か新しくしたけれども、あえてもう観光のページは少なくしたと。とにかく地元の人らが見て役に立つ情報はこれだけつくったけれども、もともと観光は少なかったらしく、観光をやったって、うちはお客さん来うへんもんで、それよりはやっぱり地元の人という、そういうようなところも考えながら、本当に5年間かけて何を順番にやっていくというところはきちっと私も検討して、無駄に使いたくないなというような思いもあります。

○田中委員 今、教科書で輪中を取り上げているのは、社会科で3誌、理科で1個。これを一つでも増やしたいなということですが、肇さんの話で、去年の年末になってから招集がかかって、急に、輪中輪之内検定というのをやったんです。安八町の教育長さんも受講されました。森公夫区長も受講されました。大変満足されていて、いっぱい人が来た。

これを仕掛けた方が、盛岡の出身だそうです。盛岡から輪中というのと、とてもとても輝いて見える、輝いて見えるのかな、とても面白いと。僕は、この人にかけてみたいと思って、5年間。

この人がやったのは、僕が知っているのは、例えば管粥神事とか、それからごまんど祭りとか、それからあそこの上大樽の何やら……。

(「ぞうすい祭り」と呼ぶ者あり)

○田中委員 ぞうすい祭り。ぞうすい祭りなんて感動の映像やね。

それから、加藤正昭さんが輪中堤を締め切ったときのいきさつを録画してあって、どれだけかあるんですけど、これがDVDと商工会のホームページに載せてあるらしいんですけど、僕ね、この人に5年でそういうものをもっと掘り起こしてもらえんかと。僕はこの人にかけてみたい。

それともう一つは、教育委員会関係ですけど、例えば輪之内町史とか、輪之内町でいっぱい出ている、著作権のないものが幾つかあって、町史をウェブで出しているのは養老町だけなんですわ。僕は、これを全部デジタル化して、ホームページに出すのと、さっきの輪中に対する思いのある人間をこれをするというのと、もう一つ、輪之内のただ一つかなと思うのは、浅野先生が土器の何かにおっしゃるので、あの方にやっていただいて、報告書を書くなり、展示品を整備するなり。

輪之内におると、町長さん言われるように、うちらはどっぷりとつかってあるので……。

○市橋（肇）委員 分からない、よさがね。

○田中委員 よそからやらせると面白いんでねえかなと。

1億円が、申し訳ない、文化会館を修理するとかいったら、すぐ終わってしまうので、あまりハードに使わずに、ソフトに、たかが1億円、悪いけど。

そういうのと、アーカイブをつくるので、アーカイブをつくれるのに、そんなにないの。

でもね、ちょっと自分の話になるんですけど、一番最初アーカイブがいいなと思ったのは、10年ぐらい前ですけど、中国の古典のちょっと本草、薬の本を探した。北京大学で出しておいて、日本では出しておるんだけど物すごく重くて使い物にならん。北京大学のは安物で、ずっとダウンロードできるので非常に使いやすかった。

最近のやつは、日本でアーカイブを出しておいても使いやすいよね。養老町の養老町史でもダウンロードがすっと一瞬にできるので。

それから、木曾川下流河川事務所、桑名か何かにある。あそこで「K I S S O」という冊子を出しておるんですよ。それは特集号からするとこんなあるそうやね。

でも、今はそういう時代なので、輪之内も何にもあらへんかったらそれにかけてみるかなと。

○市橋（肇）委員 私もう一つは、その見方がね、学術というと古くからの経過とか、そういったもので調査して事実はこちらでしたよだけなんですけど、輪之内の例えば輪中への取組についての物の見方として、こんな水屋がありました、こんな生活していました、こんなですという羅列じゃなくて、例えば輪之内の主力産業は農業ですよ。米作りと輪中との関係で、結局どんな農法が変わってきたり、それからどんな成果として対価をどのくらい上げてきたものかとか。今、逆に農業というのは衰退していったりなんかしているじゃないですか。

だから、産業課なんかは捉えていく年次の報告の中で、エポックとして輪中というものの関わりをどちらかという今から昔を探っていくような、昔から持ってくるんじゃないかと、時系列的に探っていくのは今からのところを探っていくって、事実を今なりの評価パラメーターをもって過去の歴史を探っていくというような捉え方をすべきじゃないかと。昔から持ってきて、こうですよ、こうですよという羅列で終わるんじゃないかと。

○朝倉委員 それなら町史がありますのでね。

○市橋（肇）委員 そう。そうじゃなくて、今の我々が生きていく輪之内で主力の、第1次産業が一番の産業じゃないですか、いまだにもって。それから、そういう昔を探ることと、これからの農業をどう発展させていくかということを考えるということのほうが、僕は大事じゃないかなと。学術文化という話になっていくと、ともすると昔を探ることばかりやっているような感じがして。

そうじゃなくて、それを踏まえてこれからどう持っていくんやということのほうへ持っていけば、若い人にも興味ができる。例えば農業就業人口はもう半減させるぞとかね、いろんな考え方をやるべきじゃないか。

というのは、成果である生産高とか金額に換算した場合に、どの程度魅力ある話になっているのかということ再評価すべきだと思うんです。昔は、ほとんど輪之内の住民は農業で食っているようなところがあったんだ。今、もうほとんど兼業で食っていると。そういうところで、いまだにもって農業をこんなに続けていくということがいいのかどうかということも考え直すべきじゃないかなと。ですので、そういう文化になりましたよという文化の変遷を考えるべきだと。

○朝倉委員 今年70周年、町制70年という記念の年でもありますし、そういう意味で、改めて何か新しいことをば一んと打ち出せるわけでもない、本当に社会も経済も、特に社会はこういうふうにとどんできていますので、そういった時代やからこそ改めて今やっておかないといけないこと、これを先ほど申しました5年かけてじっくりやっていきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

貴重な御提言をいただきまして、ありがとうございました。

この加納良造基金については、私ども財政を担当しておった者としても、なかなかどうなんだろう、これは、どういうふうにするのがいいんだろうというのがあったんです。

○田中委員 手のつけ方が難しいね。

○荒川参事兼総務課長 やっぱり先ほどの観光というのもあったんですけど、いつも引っ張られるのは、約十五、六年前のときの観光というのは、とにかく輪之内をどうPRするか、それに対してどういうお金の使い方をするかということに傾注したんですね。こういうことを仕掛けよう、ああいうことを仕掛けよう。それはそれなりに成果は出た。

そうすると、今度は次の段階というふうにならざるを得ない。それは何かというと、さっき町長が言われたように、人を呼び込んでお金を落とさせる、それにはどうしたらいいか、そこで行き詰まったんですね。だから、批判的な御意見として、丸毛兼利をやって、いろいろと特産品をつくって、幾らもうかったんやと。全部持ち出しじゃないかと。ということと言われると、だんだん萎えてくるんですね。

だから、現実として、結局、おっしゃるとおりビジョンの描き方が甘い。甘いというより、僕らもいろいろ考えましたけど、分からないんですよ、正直。

○田中委員 よそにあるやつを輪之内へ持ってきていうて、それはできんよ。

○荒川参事兼総務課長 うん、そう。

○田中委員 そうでしょう、そういう話でしょう。

○荒川参事兼総務課長 そうです。だから、これはやっぱり大きく発想の転換をしないと。

○田中委員 神戸町が、もうちょっと進んでボランティアガイドをつくった。各町村みんなつく

っておるんだよね。ボランティアガイドいうてお金を出すんやけど、ボランティアガイド、どこの課に属するんか知らん、一個も来うへん、それは。それで、ボランティアのレベルは物すごくいいんですよ。でも、誰も来ない。それは来ないよ。

この西濃地方で、あなたのところって観光のまちやなと僕言ったのは、おちよぼさんね。

○市橋（肇）委員　そうです。

○田中委員　ここは力が入っておるで、ここは今、高山とええ勝負するんやないかと思う。まあのほんのちょこつとのにぎわい、総数で見れば高山が勝つけど。僕は、輪之内はそういうやり方ではなくて、違うやり方でないと。

高山の人と話をすると、高山の商工課長、あそこは資源があり過ぎて、どれを選ぶかという。

○朝倉委員　そうですね。

○田中委員　輪之内はそうやないので、僕は、ないところはないで誇りを持って、それでよそからの目で外部の人にやらせてみると。

○市橋（肇）委員　ただ、私思うんですよ。今言われたおちよぼ、海津市、そういったところがある、同じことはもう無理でしょう。

○田中委員　無理無理。

○市橋（肇）委員　それから、輪中だって、海津には海津の資料館みたいなのがありますね、海津城を模した。それから、大垣へ行けば輪中館とか何とかがあるでしょう。輪中を同じように捉えておっても仕方がない。だから、僕は産業との関わりを考えていきなさいよというような言い方をしたんですけど。

やっぱり私たちがこれから輪之内で生きていくためには何が必要かと。ここの加納さんの言い方でも学術文化振興基金と言っている。振るい起こそうとしている。起こさなきゃ駄目なんですよ。要は、昔ながらのものをやるだけだったら深耕、深く耕すでいいんですよ。そんな僕はあまり意味がないということをお願いしたいんです。

○荒川参事兼総務課長　今回、そういった意味では……。

○市橋（肇）委員　意見だけです。すみません。

○荒川参事兼総務課長　いい御提言ということ。

○田中委員　いろいろ考えていただいて、また。

○朝倉委員　本当に時間をかけてやっぱり、繰り返しますけれども、もったいない使い方はしたくないと。せっかくじいっと温めてきた1億円ですので。

○長屋委員　輪之内の場合は、例えば観光協会ですごくいいコンテンツを持っていたりとか、あと輪之内学研究会は、そこでいろいろやっているし。

それから、町の組織としては文化財保護審議会もあるんだけど、何かそれぞれがやっていて、

それこそ点で終わっている感じがあって広まっていないので、何かその辺もったいないなという気がします。

それから、この間もちょっと町長さんにお話ししたんだけど、わのうち百話というのがあって、そういう物語みたいな、それぞれの地域に伝わっているやつ。それをじゃあ今の子供たちが知っているかという、ほとんど知らないので、せっかく町制30年のときに本をつくったじゃないですか。あれを例えばボランティアの中学生でもいいし、人形劇団の方でもいいので、朗読してもらって、例えばCD化をして、学校の給食の時間に毎日2話ぐらいずつ流すとかするの、一つ何か面白いのかなという感じはしていますけど。コンテンツがもったいないなと。

○市橋（肇）委員 あと、やっぱり私たちもトライアル・アンド・エラーしたんですけど、いろんなものをつくっても、必ず行き着く先は、先ほど言われた人・物・金ですよ、必ず。

ある程度いったときに、例えば観光委員会も、文化庁からいかに銭を引き出して、それでイベントをやっていくとか、それからそれに関わる人はどんな人をどうするかということに尽きてくる。だから、ある程度になってくるともう事業なんですよ。経営資源をいかに使う、マネジメントの世界になってくるので、何か文化振興とはなかなか合わないかもしれない。非常に難しくなってしまう。

○荒川参事兼総務課長 そうですね、ちょっと。

○市橋（肇）委員 それで、やっぱりそういう話になったときに、やっぱり頼るのは町とか何とかで、人がおる、銭があるというところをどうしても……。

手弁当では限界があります。人も集まりません。逃げていきます。というのが十数年の。だから、僕は、申し訳ないですけど、今ある程度定年延長したりなんかしていらっしゃるでしょう、職員の方。それで、いろんな課に残っていらっしゃったり、いろいろするんですけど、そういう人たちは輪之内の事と成りをずうっと生きてきている人たちなので、そういう人方に先ほどのようなプロジェクトを担っていただいて、これからを考える集団になっていただけたら、プロモートするドライビングフォースになっていただけたらなというふうにはちょっと思うんですけど。輪之内を把握している人にやってほしい。それはある程度こういう地方公共団体でずうっと生きてきた人じゃないと、人脈から、地形から、何もかも把握できている人たちじゃないかなと思うので、その人たちを有益に使っていただけたら一番いいかな。

○朝倉委員 そうですね。またその辺りは一度じっくり検討させていただきますので。ありがとうございます。

○荒川参事兼総務課長 じゃあ、当初予算についてのことについては、そういうことで、今日は加納良造基金の今後の使い道について考えるきっかけというような会議となったということでまとめさせていただきたいと思います。

それでは、その他とありますけど、何かありますか。

よろしいですか。

(挙手する者なし)

○荒川参事兼総務課長　じゃあ、今日の総合教育会議はこれで終わらせていただきます。どうもお疲れさまでした。

(午後 5 時51分 閉会)

会議の経過を記録して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和 年 月 日

委 員

委 員